

ネット社会でどう生きるか  
～あなたも今日からデータサイエンティスト～

授業者 附属池田小学校 末廣彩華

1. 対象 附属池田小学校第6学年南組(34名)

2. 単元目標

自分の置かれた状況、環境において必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、行動するために必要な力をつけることができる。(思考力、判断力、表現力等)

安全に対する課題に関心をもち、主体的に自他の安全な生活を実現しようとする態度を養う。

(学びに向かう力、人間性等)

3. 指導に当たって

(1) 教材観

本教材は、「安全科」の生活安全の領域にあたる。既習事項や他教科の学びを関連付け、自分の置かれた状況や環境から具体的に「安全・安心な生活」について考えることができる教材である。社会は情報にあふれている。今後も情報を取捨選択しながら生きていくことになる。本教材では、身近なネット社会を扱い、個別に課題を設定することで、自分事にして考え続ける粘り強さ、これまでの経験や学びを想起し、未来を予測したり、自己調整したりする際の手がかりになると考える。また、ネット社会の情報の中でもデータに焦点化し、データを分析したり、課題の再設定で用いたりしながら、データの有用性にも触れることができる。生活の中でデータによって時には社会が左右されていることにも気づくことができ、批判的に物事を捉えることもできるであろう。

(2) 児童観

「安全科」を6年間行ってきた児童は、自分の生活や経験と結び付けて考えようとする姿が見られる。安全教育の3領域(生活安全・交通安全・災害安全)の知識は概ね理解している。しかし、身につけた知識・技能を使って行動することには課題が見られる。また、安全・安心な生活を送るためには、普段からじっくり考えることが必要である。安全科の学習で立ち止まって考えることはできているが、行動の自己評価にまでは至っていない。自分の生活と結び付けて考え、行動する力を身につけてほしいと願っている。

また、今回はデータを扱うことを条件にしている。児童は算数科の学習において資料活用を行い、データによって伝え方が異なること等の学習を行っている。データに興味・関心があることから、自分なりに分析・整理することで見えてくるものを表現することで他教科の学びを自ら生かし、表現する姿も見られるのではないかと考えている。

(3) 指導観

「安全科」は年間15時間である。本単元においては、既習事項や他教科との連携を図りながら単元構成をする。主体的に自他の安全な生活を実現しようとするために、自分には何が必要か取捨選択し、実際の行動に結びつくことを目指している。道徳科、総合的な学習の時間と関連させながら、探究的な学びを進めていく。そのために、既習事項や児童の知識の呼び起こしの場面をファシリテートしていく。そして、自分の行動に結び付け、自分の行動を評価するところまで単元の中で行うことで、学びの切実感、必要感をもって進めていけるようにする。今回は、データの活用についても吟味する時間を設定する。自分で課題を設定し、自分の考えを伝えるためにデータにて説得することに加えて、課題の再設定にもデータを用いることで、異なるデータの使い方も体験し、自分の生活結び付けていくことができるようする。

指導計画は以下の通りである。全14時間の単元で構成している。ここには大まかな流れを記載する。

時間	教科	学習内容
1	道徳科	「達也の転校」人との付き合い方の中で情報機器をどのように扱うことが望ましいか自分の生活を振り返りながら考える。
2	安全科	既習事項を思い出しながら、ネット社会において人とつながる時のメリット・デメリットについて考え、ネット社会の状況を知り、これから必要なことについて考える。*振り返りでは課題設定へと進む。
3	総合的な学習の時間 【課題の設定・計画】	ネット社会における友人関係のコミュニケーションについて、自分が深めていきたい課題を考え、学習計画を立てる。
4	総合的な学習の時間 【情報収集、整理・分析】	課題に対して情報を集め、データの整理・分析を行う。 *課題を解決したり、自分の考えに説得力をもたせたりするためのデータを集める。
5	総合的な学習の時間 【まとめ・表現】	自分の課題を【Canva】にまとめる。 *プレゼンの準備もする。
6	総合的な学習の時間	自分のまとめたものを中学生にプレゼンし、アドバイスをもらう。 *次の課題設定に向けてのテーマを提示する。 テーマ:「ネット社会でどう生きるか」
7	道徳科	インターネットの情報発信の行方等を情報モラルの観点を用いて客観的に考え、ネット社会の状況から自分のこれからの生き方を考える。
8	安全科 【本時】	「ネット社会でどう生きるか」データから自分の課題を見つけ、情報モラルに着目して考える。
9	総合的な学習の時間 【課題の再設定・計画】	「ネット社会をどう生きるか」データをもとに課題を再設定し、学習計画を策定する。
10	総合的な学習の時間 【情報収集・整理・分析】	情報モラルについての情報や課題との関係性におけるデータを集め、整理・分析を行う。
11	総合的な学習の時間 【情報の整理・分析】	自分の集めたデータについて分析した結果が妥当か否かを交流して吟味する。
12	総合的な学習の時間 【まとめ・表現】	「ネット社会でどう生きるか」について【Canva】にまとめる。
13	総合的な学習の時間	それぞれの成果物をプレゼンし、全体交流で意見をもらう。 その後、実際に行動するための計画書を作成する。
14	安全科	行動計画書をもとに「安全な生活につながっているか」評価する。

#### 4.評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
これまでの学習の学びを生かすことができる。 *他教科の学びで評価をする。	ネット社会におけるメリット・デメリットに対して、状況に応じた判断をしようとしている。 データを活用して表現しようとしている。	様々な状況について想定し、自分の生活と重ねながら、主体的に自他の安全な生活を実現しようとしている。

## 5. 単元指導計画(全14時間のうち安全科3時間のみ記載する)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	既習事項を思い出しながら、ネット社会において人とつながる時のメリット・デメリットについて考え、ネット社会の状況を知り、これから安全な生活を送るために必要なことについて考える。	ネット社会の仲間とコミュニケーションをとることに限定した状況で「安全・安心に過ごすため」に自分にとって必要なことを想定したり、判断したりすることができる。		●	○	ロイロノート
2 【本時】	自らの課題を見つけ、「ネット社会でどう生きるか」情報モラルの観点からデータを活用して考える。	「ネット社会」の様々な状況を想定し、情報モラルの観点に注目して情報を集めたり、課題を考えたりすることができる。		●	○	ロイロノート 成果物
3	自分が作成した実際の行動計画を振り返り、今後どのようにネット社会で生きていくのかを考える。	行動計画を見直し、「安全・安心な生活」の実現を目指そうとしている。			●	発言 振り返り

## 6. 本時の展開

### (1) 本時の目標

「ネット社会でどう生きるか」について、自分の考えをもち、「安全・安心な生活」を実現するために必要なことについて考える。(思考, 判断, 表現)

### (2) 本時の評価規準

「ネット社会」の様々な状況を想定し、情報モラルの観点に注目して情報を集めたり、課題を考えたりすることができる。

### (3) 本時で発揮されるグローバル市民性について

本時におけるグローバル市民性は、様々な状況に対して、安全な生活の実現につながるのかを考えることである。情報モラルの観点から自分で課題を設定し、計画的に学習を進めたり、自分の考えを吟味したりすることで、人とのつながりの中に生きていることや自分の考えを表現するよさを感じることができるであろう。一人で考えることに加え、仲間と共に考えることは、社会で生きていくという姿勢を育てることにつながる。本時では、今まで考えてきたことをベースに社会の状況をより広い視点から捉えることによって、社会と自分のつながりを児童自身が実感していくと考えられる。その場面は特に「情報モラル」という観点を提示した時に発揮されるであろう。考えることを焦点化することで多様な考えを受け入れることのできる状態となり、さらに自分の考えを深めていききっかけと成り得ると考える。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 五分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習から「ネット社会」のメリット・デメリットを想起する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの板書・振り返り等を取り上げる。児童の言葉で思い出すことができるようにする。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「ネット社会でどう生きるか」について考えよう。</div>			
展開 三〇分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ネット社会でどう生きるか」について自分なりの考えをもつ。 (3人交流→全体交流)</li> <li>・「ネット社会」の様々な状況について様々な側面から考える。 (想定・判断)</li> </ul> <p>その後、「情報モラル」という観点でさらに状況を追究していき、自他ともに安全・安心な生活を送るために「ネット社会」で必要なことについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学びを思い出しながら「安全・安心な生活」を送るために何が必要かということを考えるように促す。</li> <li>・「ネット社会」の状況提示は身近なものから世界の状況など広いものまでいくつか提示し、批判的に考えられるようにする。 (データを用いた資料を提示する。)</li> <li>・自分の生活と照らし合わせて考えるように声をかける。</li> </ul>	ロイロノート (思考力・判断力)
まとめ 十分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活と結び付けて「ネット社会でどう生きるか」をどのような課題をもち、追究していくかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の状況と確認しながら考えていくように促す。</li> </ul>	

(5) 準備物

クロームブック(ロイロノート)・筆記用具